

吉野作造の歩いた場所をたどってみよう

各ポイントを詳しく紹介します！

① 志田郡役所跡

(現古川市役所本庁舎)

吉野作造は明治十一年に生まれました。生家は現在の古川市十日町にありましたが、その辺りは当時、志田郡大柿村という村でした。大柿村はのちに周辺三村と合併して志田郡古川町となります。その郡の政庁である志田郡役所があった場所です。建物は、大正十五年に郡役所が廃止されたあとも、学校や公民館として利用され、最終的には昭和三十一年、金五輪の祇園八坂神社に移築されて社務所となりました。現在は取り壊されてなくなっています。

② 古川第一小学校

吉野作造が学んだ小学校です。吉野が入学した明治十七年には、古川小学校という名前でした。吉野は明治二十五年に卒業するまでの八年間を、ここで過ごしました。

正門前には、吉野と友人の三浦吉兵衛が発起人となって建てた、恩師・細川松三郎の頌徳碑があります。

③ 緒絶橋

緒絶川に架かる、白玉姫の伝説で有名な橋です。現在のものは大正十四年につくられました。緒絶川は古川市の中心市街地を流れています。少年時代の吉野は、この川で魚取りや水浴びをして遊んだことでしょう。現在、橋の西側には「市民ギャラリー緒絶の館」があり、市民の作品発表・鑑賞の場となっています。

④ 瑞川寺

吉野作造の両親や兄弟の墓があります。曹洞宗の寺で、山門は室町時代につくられた古川市最古の木造建築物です。吉野自身の墓は、残念ながら古川市ではなく、東京都府中市の多磨霊園にあります。

⑤ 祇園寺技芸専門学校

明治十四年、祇園寺きくが私塾として開始した学校です。明治二十九年より、県の許可を受けて私立祇園寺裁縫学校と称し、昭和二十四年に校名を現在のもの

に改めました。

古川の女子教育の先駆的役割を担い、これまで多くの卒業生を送り出しました。昭和三十年頃には生徒数が千人を超え、規模は東北随一と言われました。吉野もここへ通う女学生たちを、いつも見ていたのでしょうか。

⑥ 古川座跡

明治四十五年建てられた劇場です。回り舞台、花道、升席などを備えた本格的な施設でした。歌舞伎から新劇まで多くの有名な俳優がやって来しました。戦後は映画を中心に興行しましたが、昭和三十四年、国道が建物を買いてつくられることになり、惜しまれながら取り壊されました。

吉野は大正十三年と昭和三年に、友人や弟子の選挙応援演説のため古川を訪れ、ここで講演を行いました。

⑦ 吉野作造生家跡

吉野作造の生まれた家があった場所です。現在は小さな公園に整備されています。

平成十年には古川ロータリークラブが、吉野の言った「人生に逆境はない」という言葉を刻んだ碑を建てました。

⑧ 大崎タイムス社

昭和二十二年に創立された新聞社です。古川市を中心に広く大崎全域の情報を手掛けています。

社内には、吉野作造の弟で、運輸大臣などを務めた吉野信次の書(額装)が飾られています。

⑨ 荒雄神社

昭和六年、県内でも有数の醸造業を営んでいた青沼彦治が私財を投じて建立しました。菅原道真、楠木正成、和氣清麻呂の三者を祭っています。

隣接する旧荒雄公園も、神社に先立ち、彦治の働きかけでつくられたものです。当時から、人々の憩いの場であり、桜の季節には多くの花見客で賑わっています。

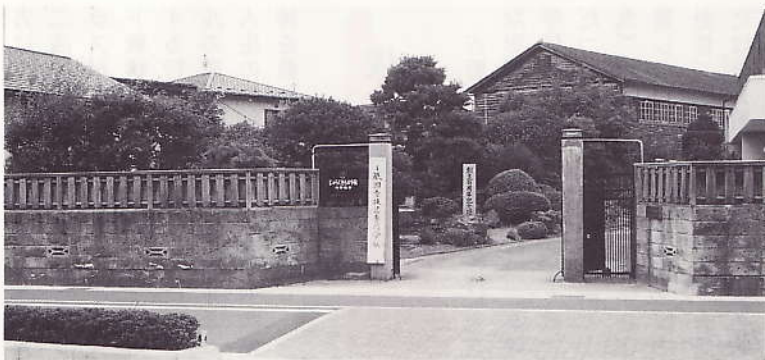
現在公園は拡張され、園内には駐車場やイベント広場、祥雲閣、吉野作造記念館などがつくられています。

なお、吉野作造の甥・孝雄の妻が、青沼家の出身です。

⑩ 吉野作造記念館

平成七年に開館した施設で、古川市教育委員会が管理・運営を行っています。入り口の右手に、「古川学人

吉野作造之碑」があります。これは、昭和四十一年、吉野先生を記念する会が古川市民会館の敷地内に建立したのですが、開館時にここへ移築されました。



祇園寺技芸専門学校
平成11年8月21日撮影